

11/22(金)の発表



北海道白老町に2020 OPEN!

報道発表資料の配付日時 11月22日(金) 11時00分

発表項目 (行事名)	「第6回北海道食育推進優良活動表彰」の受賞者が決定しました。		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>平成26年度に創設した「北海道食育推進優良活動表彰」の第6回受賞者が次のとおり決定しましたので、お知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 表彰の目的 道内の食育推進活動を促進し、道民の食育に対する関心を高めるため、食育の活動を積極的に行い、道内における食育の推進に貢献している個人または団体を表彰する。</p> <p>2 応募期間 令和元年7月12日(金)～9月30日(月)</p> <p>3 受賞者(五十音順) ・小川 文夫(浜頓別町 酪農家) ・北海道旭川農業高等学校食品科学科中華まん班(旭川市) ・有限会社ほんだ菓子司(砂川市) ・余市町食生活改善推進員会(余市町)</p> <p>4 表彰式・講演会 (1)日 時 令和元年12月17日(火) 13:30～15:30 (2)場 所 ホテルポールスター札幌 2階 コンチェルト (3)内 容 【第1部】表彰式 ※農政部食の安全推進監から表彰状を贈呈 【第2部】講演会 ・受賞者による活動紹介 ・食育に関する講演 テーマ:「やさしい食育で健康に生きる」 講演者:ヌキタ・ロフィスト 代表 貫田 桂一 氏 (4)その他 会場の都合により、事前申込みをお願いします。(別添チラシ参照)</p>		
参 考	添付資料:北海道食育推進優良活動表彰の概要 受賞者の取組概要 「北海道食育推進優良活動表彰」表彰式・講演会申込用紙		
報道(取材)に当たってのお願い	食育の取組を皆様の今後の活動の参考にしていただくとともに、道民の皆様への食育への関心が高まるよう、受賞者の取組を幅広く知っていただきたいので、表彰式の取材と道民への周知をお願いいたします。		
他のクラブとの関係	同時配付(場所) 同時レク		
担 当 (連絡先)	農政部食の安全推進局食品政策課(担当者:堀田、千葉) TEL 011-231-4111(内線 27-666) 011-204-5427(ダイヤルイン)		

第6回北海道食育推進優良活動表彰の概要

北海道農政部食の安全推進局食品政策課

1 北海道食育推進優良活動表彰について

道内の食育推進活動を促進するとともに、道民の食育に対する関心を高めるため、食育の活動を積極的に行い道内における食育の推進に貢献している個人または団体に対する表彰制度を平成26年度に創設した。今回6回目の実施となる。

2 候補者の募集

令和元年7月12日（金）から9月30日（月）まで、約2ヶ月にわたり募集。

3 選考委員会の開催

食育に関係する有識者4名で構成される選考委員会を11月1日（金）に開催し、4件の受賞候補者を選考した。

4 受賞者（五十音順）

選考委員会の選考を踏まえ、以下のとおり受賞者を決定。

受賞者名	取組概要／評価された点
小川 文夫 (浜頓別町)	酪農体験を通じて「食や命の大切さ」を伝える取組 酪農という強み生かして、生きることや食べることの大切さを伝えるなど、食の根幹に関わる食育活動に長い間取り組んでいる。
旭川農業高等学校食品科学科中華まん班 (旭川市)	「あったか旭川まん」等を活用した農業と地域の活性化への取組 生産者、企業、大学などと連携し、パートナーシップを構築しながら、地域の活性化につながる食育活動を展開している。
有限会社 ほんだ菓子司 (砂川市)	お菓子づくりを通じた地産地消など、地域の食育を推進する取組 自分でケーキを作ることができる工房「シェフズ・ラボ」の運営や地域農産物を使用した菓子の製造など、地域への貢献が高い。
余市町食生活改善推進員会 (余市町)	食生活改善の普及啓発活動を通じた健康づくりの推進 各世代のライフステージに合わせた食生活改善活動を、地域に根差し、行政等と連携しながら、長年にわたり継続して実施している。

5 表彰式

令和元年12月17日（火）13:30～15:30に賞状の贈呈や受賞者の活動紹介のほか、講演会を実施する。

第6回北海道食育推進優良活動表彰 受賞者の取組概要 (五十音順)

受賞者名	小川 文夫 (酪農家)				
所在地	浜頓別町	代表者	—	活動開始	平成13年度
取組内容	<p>酪農体験を通じて「食や命の大切さ」を伝える取組</p> <p>○活動内容・実績</p> <p>①食育体験 <乾草舎の中で青空教室> 搾乳体験に来た方々に「牛の一生から食や命の大切さ」を語り「いただきます」の言葉の持つ意義を考えようと呼びかけている。お話の内容は主に3点。 ・ バランス良いエサの与え方は人間の食事と同じであること ・ オスが生まれると殺され人間に食べられること ・ 育てた人の気持ち、と殺する人の気持ちを紙芝居で見せる <仔牛のほ乳体験やアイスやバター作り体験> 5月～9月の期間で、200～300人/年</p> <p>②食育講義など 高校や大学などに出向き、食育講義として「いただきますの言葉の裏に」の題目で講義を実施。</p> <p>○活動の波及・成果 ・ 新規就農を希望する大学生などは、酪農の持っている多面的機能を使って消費者等と交流したいと願う人も多く、担い手センター等からの出前授業や、これから取り組もうとする既存酪農家への講習会の依頼が増えている。 ・ 食育ファームとして、宗谷食育推進協議会に参加し、活動内容を広めている。 ・ 体験者から沢山の感謝の言葉が寄せられ、子ども達からは「牛の命をいただいているのだから食べ物を大切にします」「今後は給食やご飯を残さず食べます」「いただきます、ごちそうさまを必ず言います」など、大人や先生からは「実践者の話は伝わり方が良く理解しやすい」「とても良い話が聞けました」などの感想が多くある。</p>				

受賞者名	北海道旭川農業高等学校食品科学科中華まん班				
所在地	旭川市	代表者	校長 田村 弘樹	活動開始	平成23年度
取組内容	<p>「あったか旭川まん」を活用した農業と地域の活性化への取組</p> <p>○活動内容・実績</p> <p>・食育・発信 地域一体となったコミュニティを紡ぎ、地元農産物と「あったか旭川まん」の魅力や美味しさを広げるため、保育施設や地域食堂、地域のイベントなどで「あったか旭川まん手作り体験教室」などを開催。</p> <p>・地域協働 JA旭川青果物出荷組合連合会と新たなパートナーシップを構築し、生産者の声を聞き、地域農業の実態をつかむため訪問調査を実施。</p> <p>○活動の波及・成果 ・ 関係機関との連携などによる取組が地域から評価され、経済波及効果は一部の取組だけでも通算1億円にもものぼると試算されるなど、地域産業や農業の活性化に寄与している。 ・ また、地域農業パートナーシップを構築して、グラウンドワークを実践し、旭川のしごとづくりに貢献できただけでなく、生徒たちも社会性を高めることができたほか、北海道文教大学との共同研究をスタートさせ、農と食の科学的視点で融合して旭川のひとづくりに貢献でき、生徒たちも科学性も高めることができています。 ・ さらに、食育体験教室や地域での発表活動を通じ、旭川の農と食の魅力を伝え、旭川のまちづくりにも貢献でき、生徒たちの指導性を高めている。</p>				

受賞者名	有限会社ほんだ菓子司				
所在地	砂川市	代表者	代表取締役 本田 啓輔	活動開始	昭和 32 年度
取組内容	お菓子づくりを通じた地産地消など、地域の食育を推進する取組				
	<p>○活動内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お菓子のお店を通じて、笑顔を創造する」という使命感で始めた「シェフズ・ラボ」は、お客様自らが大切な人に贈るケーキを作るための工房で、滝川本館、岩見沢いなほ公園店で実施中。 ・このほかにも、小学生や家族連れを対象にしたアップルパイづくりの体験教室や、工房での1日職人体験を開催。 ・地元産の素材にこだわり、店舗ごとに近隣の農業者のりんごやブルーベリーを使ったパイの販売や、生産者や地元高校生と連携して新たな商品開発にも取り組むほか、地域の女性農業者グループと連携し、店舗敷地内で開催するマルシェでは、とれたての農産物などを販売。 <p>○活動の波及・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シェフズ・ラボ」は、これまで1,500組以上が利用しているほか、空知総合振興局による「高校生への出前授業」で、さつまいもを使ったパイづくりなどの調理体験にも活用されており、さらには、三笠高校と連携し、高校生の考案した地域の農産物を活用したお菓子「ぼてまろげ」の商品化にもつながっている。 ・さつまいも生産者と連携した商品開発では、農林水産省・経済産業省による「農商工連携」の認定を受け、生産者は売り先を確保できたことで、生産拡大が可能となり、独自に商標登録を行い、ブランド化を図るなど、地域農業の振興にも貢献している。 ・「シェフズ・ラボ」の取組は全国的に少なく、利用者は年々増加し、リピーターも多く、地域における食育に貢献している。 ・また、店舗ごとに近隣の農業者が生産したりんごやブルーベリーなどの材料を使った「ご当地」菓子を販売するなど、地産地消の取組にも力を入れるとともに、その取組は生産者と消費者との架け橋にもなっている。 				

受賞者名	余市町食生活改善推進委員会				
所在地	余市町	代表者	会長 谷 定子	活動開始	昭和 52 年度
取組内容	食生活改善の普及啓発活動を通じた健康づくりの推進				
	<p>○活動内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやこの楽しい食育教室の開催 ・「どさんこ食事バランスガイド」の普及 ・園児クッキング食育教室の開催 ・乳児検診時における野菜摂取の普及 ・町広報「健康ひろば」へのレシピ等の掲載 ・余市町健康づくり計画策定への参画 など <p>○活動の波及・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやこの楽しい食育教室 ・親子で食事の大切さや食文化の伝承を学ぶ食育教室として、町、教育委員会と連携して開催し、リピーターも増え、親子の心の絆を深める機会となっている。 ・「どさんこ食事バランスガイド」の普及 バランスガイドを寸劇やマジックショーに脚色し、町のイベントや教室等において実演することで、身近な啓蒙活動として大きく貢献している。 ・園児クッキング食育教室 自ら育てた野菜を収穫し、調理方法を学ぶなどの体験を通して、“食べ物のいのちを感じる力”を養うとともに、地産地消の食文化を伝える機会となっている。 ・乳児検診時における野菜接種の普及 参加者から「野菜の目安量を確認できて良かった」など、家族全体の食生活の見直しや改善につながっている。 ・このほか、食生活改善推進委員会の取組である食改広場、地域健康教室などでは、町特産のりんごやサクランボ、野菜、魚介類など、地元の食材を積極的に活用し、地産地消につながっている。 				

「第6回北海道食育推進優良活動表彰」 表彰式・講演会

道では、食育の活動を積極的に行っている方の功績を称え、その活動を紹介することによって、道民の方の食育に対する関心を高めることを目的に、食育表彰を行っています。

このたび、第6回表彰の受賞者が決定し、表彰するとともに、受賞者の活動紹介や有識者による講演会を開催しますので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひ、ご来場ください。

- 日時：令和元年12月17日（火）13：30～15：30（開場 13：00）
- 会場：ホテルポールスター札幌 2階 コンチェルト
（札幌市中央区北4条西6丁目）
- 主催：北海道
- 参加費：無 料
- 申込み：どなたでも参加いただけますが、収容人員に限りがありますので、事前にFAX、Eメールなどでお申し込みください。
- 締 切：令和元年12月6日（金）（先着60名様限り）

◇ プログラム ◇

【第1部】第6回 北海道食育推進優良活動表彰 表彰式

受賞者（五十音順）

小川文夫（浜頓別町）、北海道旭川農業高等学校食品科学科中華まん班（旭川市）、
有限会社ほんだ菓子司（砂川市）、余市町食生活改善推進員会（余市町）

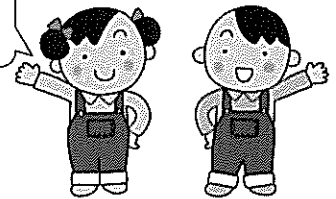
【第2部】講演会

- ・受賞者による活動紹介
- ・食育に関する講演

テーマ 「やさしい食育で健康に生きる」

講演者 又キタ・ロフィスド 代表 貫田 桂一 氏

みなさん、お誘い合わせの上、
ぜひお越しください！



【申し込み・問い合わせ先】 北海道農政部食の安全推進局食品政策課

電話：011-204-5427 FAX：011-232-7334 E-mail: slow.food@pref.hokkaido.lg.jp

詳細はこちらをご覧ください。(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/data/advance/hyosho/hyoshoshiki6.htm)

第6回北海道食育推進優良活動表彰 表彰式・講演会

FAX 申込用紙

FAX:011-232-7334

会社・団体名			
住所（市町村名）		電話	
参加者氏名			

※このままFAXしてください。